

UMFマヌカハニーの*Helicobacter Pylori* に対する臨床効果

東京警察病院内科・女性専用外来 ほんましようこ
本間 請子

はじめに

蜂蜜は紀元前350年アリストテレス、紀元50年ディオスコリデスによりすでに医薬として認識されていた。

蜂蜜の抗菌作用はそれに含まれている過酸化水素によるものであることは判明しているが、ここでとりあげるニュージーランド産マヌカ蜂蜜にはそれ以外に非過酸化水素抗菌因子；植物化学作用を持つ成分があると言われており、他の蜂蜜と比較して抗菌力に優れている。

マヌカ蜂蜜（ハニー）の*Helicobacter Pylori*（以下、*H. Pylori*）に対する抗菌作用を臨床的に検討した。

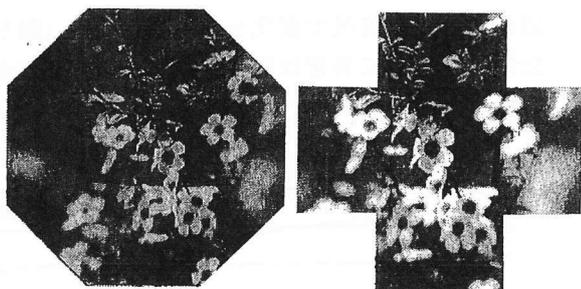


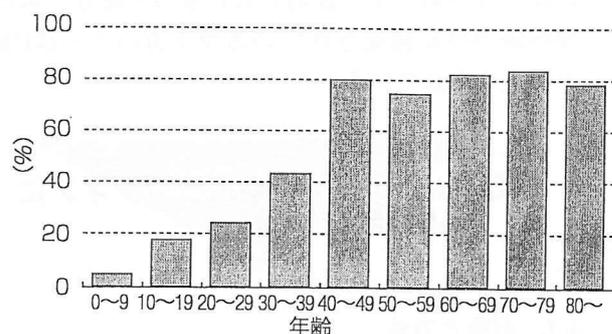
写真 マヌカ（フトモモ科）の花

1. *H. Pylori* の感染状況

*H. Pylori*は1983年Warren、Marshallにより発見されたグラム陰性らせん状桿菌で、主として乳幼児期に感染するとされ食事摂取の衛生環境の関与が疑われている。

1992年Asaka等の報告では50歳以上で80%の感染が認められ¹⁾、胃十二指腸潰瘍、慢性胃炎、一部の胃がん患者の胃粘膜内に感染し²⁾、現在日本では6,000万人の感染者がいると推定され、治療には抗菌薬投与による除菌が

行われているが、耐性菌出現が問題となってきた（図1）。



Asaka .et. al. Gastroenterology.102.760.1992

図1 わが国における*H. Pylori* 感染患者の現状

2. マヌカハニー（マヌカ蜂蜜）

ニュージーランド原生のフトモモ科、ネズモドキ属の低木 *Leptospermum scoparium* の一種であるマヌカは開墾されていない、汚染されていないニュージーランドの原野の至るところに育つ野生の木であり、このマヌカの花からマルハナバチが運ぶ蜜がマヌカハニーである（写真）。

マヌカハニーには過酸化水素による抗菌因子以外の非過酸化水素抗菌成分が含まれているが、この成分に関しては現在のところ未だ分析分離されていない^{3, 4)}。ニュージーランドのワイカト大学ではこの抗菌力をフェノール溶液の消毒、殺菌能力と比較して表現し、これをUnique manuka factor (UMF) と表した⁵⁾。すなわちUMF4 と表示されているのは4%のフェノール溶液に匹敵する抗菌力を持つという意味である。アクティブ

治験終了後、更に12週間マヌカ蜂蜜を各々好みに従って日常摂取してもらったが、1杯飲用群の抑制効果を認めた3例中2例においてそのまま抑制効果が持続し、2杯飲用群の抑制効果を認めた2例も抑制効果を認めた(図8~10)。全体で8例中4例(50%)がその後の日常摂取によっても抑制効果が観察された。また1杯飲用群の1例は常に胃もたれの症状を訴え、胃カメラでは表層性胃炎を呈し、慢性胃炎と診断されていたが、マヌカ蜂蜜を飲用開始により症状は消失し、試験後も1日1回1スプーンを紅茶に入れて飲用を続けていたところ1年後の胃カメラ検査では胃粘膜は修復され、正常と診断された。更に飲用を続け、一年半経過後呼吸試験では開始

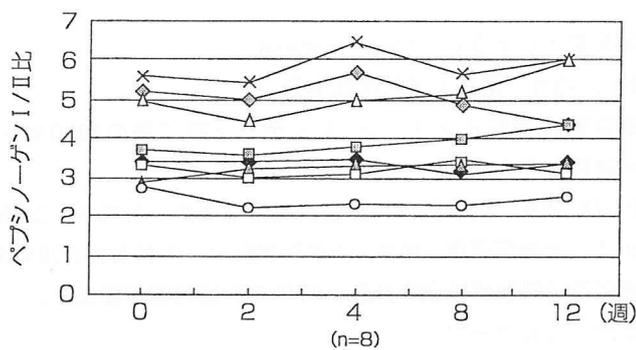


図5 ペプシノーゲン I/II 比の変化

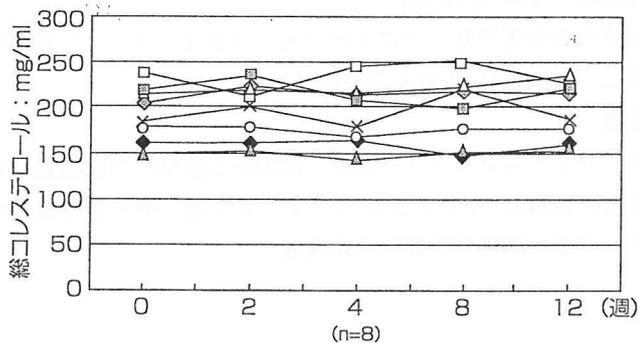


図6 総コレステロール値の変化

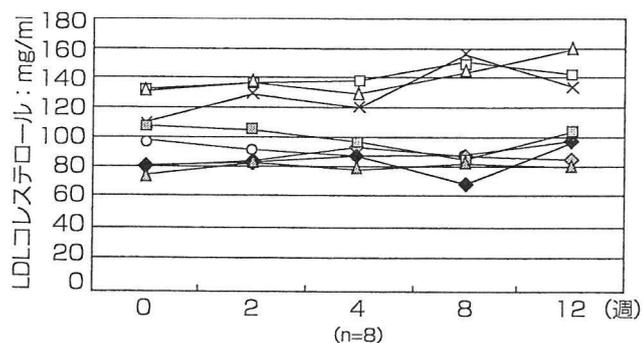


図7 悪玉コレステロール (LDL) 値の変化

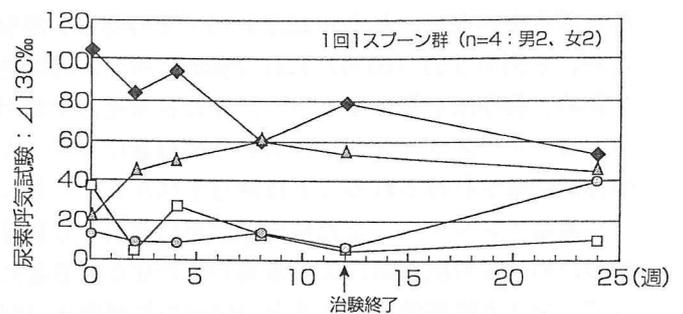


図8 マヌカ蜂蜜によるH.pylori除菌治験の結果

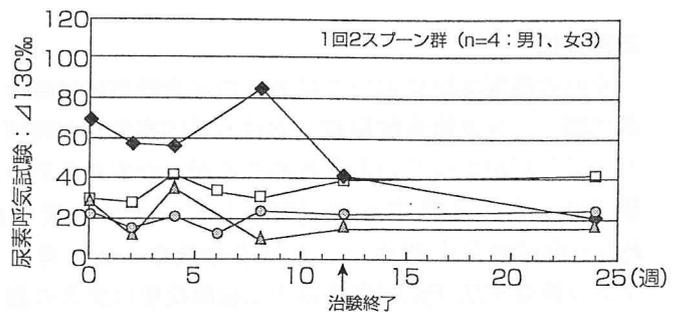


図9 マヌカ蜂蜜によるH.pylori除菌治験の結果

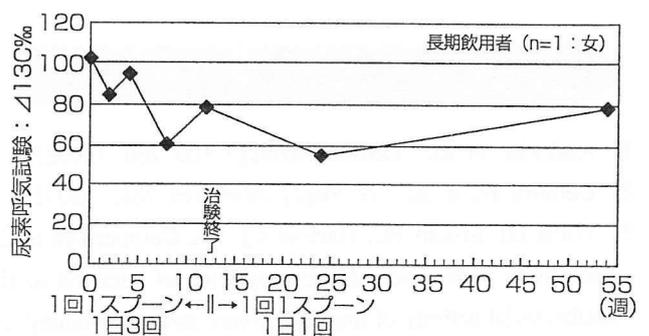


図10 マヌカ蜂蜜によるH.pylori除菌治験の結果

時に105%の高値であったが、53%まで低下し、良好な抑制効果を認めている。

3-3. 考察

アクティブUMFマヌカハニーは野生植物マヌカから得られたフェノール10%以上と同等の殺菌作用を有する蜂蜜としてニュージーランドで生産されている。当地のワイカト大学Dr. Peter Molanはマヌカ蜂蜜が他の蜂蜜と比較するとH. Pyloriに対し8倍の効力があることをin vitroで証明した⁸⁾。私共もin vitroで、マヌカ蜂蜜の揮発蒸気成分がH. Pyloriの発育阻止力があることを証明した。蒸気成分の菌抑制効果はこれまで報告がないようである。臨床応用に関しては本邦において臨床事例報告があるのみで、H. Pyloriに対するマヌカ蜂蜜の抗菌作用の臨床試

アレクリン (バッカリン) 原料を厳選 コバタ総合研究所

ングセラーを誇り、40代以降の女性リピーターがユーザーの多くを占めている。また、2001年9月の商品リニューアル時に投入した「RJ〈ドリンク〉」は価格が手頃であることから、若い女性など新たなユーザーの掘り起こしに貢献、売り上げは増加傾向にある。各製品には主原料であるローヤルゼリーに加え、緑茶成分のテアニン、肌の代謝を促進する核酸、ビタミンC・E、エキナセアなどを配合している。

マーケティング戦略の一つとして、製品コンセプトである「美容と健康」を前面に押し出し、「化粧品との併用による相乗効果」など、ユーザーに対する店舗等での積極的な商品提案を行っている。また、他社製品との差別化をより鮮明にするために、パッケージもデザイン性・高級感を持たせている。また一定の効果を期待するには長期的な摂取が必要であることから、定期購入を促進させるための販売システム「美容食品メート」を設けている。

抗菌はちみつ「アクティブ UMF・マヌカハニー」 アオテアロア

(株)アオテアロア(東京都墨田区)は、ニュージーランド産マヌカハニーに属する「アクティブUMF・マヌカハニー」を輸入販売している。PB販売のほか、原料・OEM供給も可能だ。

マヌカハニーは、マヌカ(フトモモ科の低木)の花から採取されるはちみつで、特異的な抗菌作用が認められている。マヌカの葉からは、抗菌作用を持つオイルが抽出され、ニュージーランドのマオリ族は古くからマヌカの木を尊重してきた。抗菌作用については、ニュージーランド国立ワイカト大学のピーター・モーラン博士らの研究チームにより、皮膚の感染症、胃腸障害などの改善、特に胃腸障害の起因となるヘリコバクター・ピロリ菌などを殺菌する効果が報告されている。

モーラン博士は、マヌカハニーの抗菌力の指標となるUMF値(4~15)を設定し、UMF値10以上をアクティブUMF・マヌカハニー、UMF値12以上には、「Dr.Bee」の商標をつけている。日本では、同社のみが「Dr.Bee」グレードのアクティブUMF・マヌカハニーを販売している。

(有)コバタ総合研究所(大阪府河内長野市)は、ブラジル産アレクリン(ローズマリー系ハーブ/バッカリンを厳選)原料を使用したプロポリスを製造販売する。抽出(エタノール抽出)から製造まで自社工場で一貫生産し、熟成工程を経ることで成分と濃度にこだわった製品に仕上げている。また、粒状(丸剤)にした商品でも差別化を図っている。

現在の事業構成は、受託製造が主体となり、プロポリス関連事業は1割程度に止まっているが、「需要は絶えない」とし、リピート率の高い商材として、今後も原料・OEM供給に注力していく。また、4月中旬には自社工場を一新し、受託製造事業を強化していく方針だ。

北米のビーポーレンを販売 花粉研究も本格的スタート ビーベスト

(株)ビーベスト(東京都町田市)は、米国の蜂の巣製品を販売している。取引先のメーカーは、緑豊かな北米ウィスコンシン州の300軒の養蜂家とネットワークを組み、はちみつやミツバチ製品を作り世界26カ国に輸出している。ビーベストは、それらの製品を日本の規格に合わせ、品質検査にパスした安全な商品を提供している。

同社の主力は花粉商品。「ビーポーレン500」(500mg×100カプセル、5,950円)は、ミツバチが採取した花粉だけをプルラン・カプセルに詰めた製品だ。花の種類は、アルファルファ、レッドクローバー(赤つめ草)、白つめ草、アキノキリンソウ。特に、アルファルファは日本名でムラサキウマゴヤシという通り、放牧されている牛や馬の栄養源としてさまざまな栄養素が含まれている。ビーポーレンは、ミツバチが自らの酵素(唾液)で丸めて作る花粉だんごで、ミツバチの食物でもある。その中には、酵素、補酵素、20種類以上のアミノ酸、ビタミン類、ミネラル群、核酸やフラボノイドなど90種類以上の栄養素が詰まっている。そのためか、欧米ではビーポーレンはホッケーなど運動選手に人気のサプリメントだ。呼吸が楽になり、疲労回復が早いと、運動後に愛用している選手が多いという。同社では、花粉症に悩む人からのリピート率が圧倒的に高く、通年で摂る人がほとんどのようだ。代表取締役の石川康子氏は「発売に